

第55回 定時株主総会

2020年6月24日



第6次中期経営計画の進捗状況(1)

第6次中期経営計画 基本方針

長期的かつ安定的な事業の継続と発展を目指した
“企業体質変革の定着と強化”

第6次中期経営計画 基本戦略

人財とICTへの投資による働き方改革

- 人財の確保・育成・高度化
- ダイバーシティへの取り組み
- ワークライフバランスの実現
- 競争優位性確保・業務効率化

LCトータルソリューションの高度化

- スtockビジネスの拡大・拡充
- 日比谷グループ連携
- NTTグループとのコラボ営業
- アライアンス活用

当期（第55期）を最終年度とした「第6次中期経営計画」、および、その進捗状況についてご報告いたします。

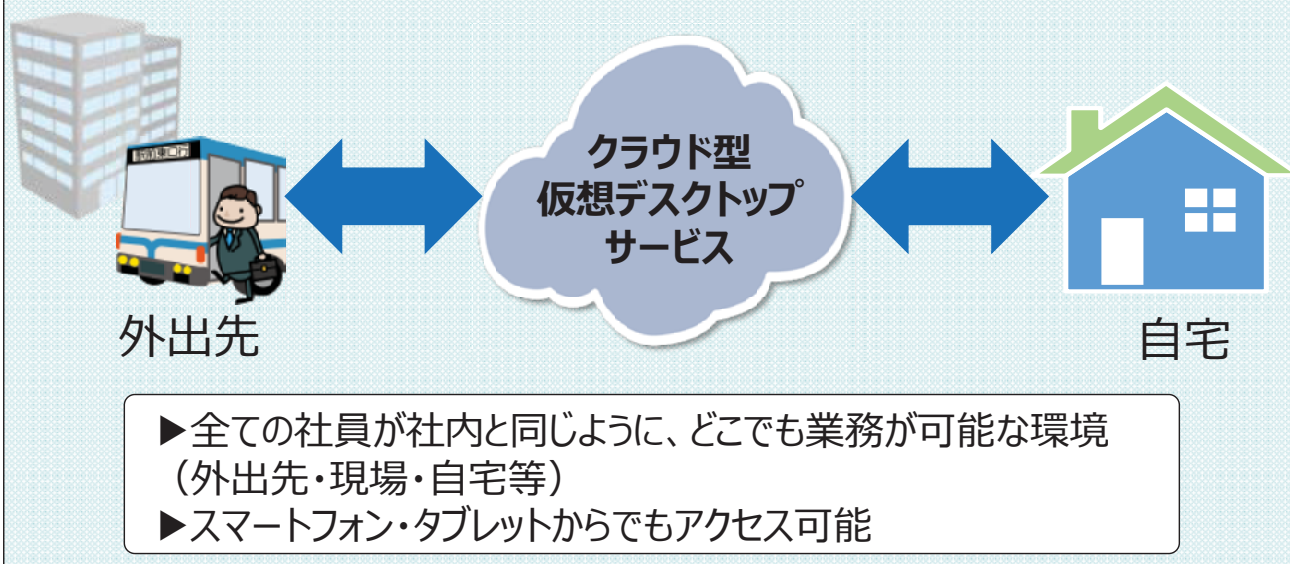
「第6次中期経営計画」では、「[人財とICT投資による働き方改革](#)」および「[LCトータルソリューションの高度化](#)」に取り組んでまいりました。

「LCトータルソリューション」とは、当社が、建物ライフサイクルに応じた付加価値の高いサービスを提供することにより、お客様との関係強化を図る取り組みであります。

第6次中期経営計画の進捗状況(2)

ICT活用による業務効率化

全社にてクラウド型仮想デスクトップサービスを活用



具体的な取り組み事例をご紹介します。

まず、「ICT活用による業務効率化」でございます。

当社では、全社レベルで、クラウド型の「[仮想デスクトップサービス](#)」を使って業務を行っております。社員が、自宅や外出先で、「ノートPC」や「iPadなどのタブレット」、また、「スマートフォン」を利用して、社内ネットワークにアクセスすることができるようになっております。

新型コロナウイルス感染症への対応に際しましても、当社におきましては、あらかじめこのような仕組みを構築していたことにより、[テレワークへのシフトを容易に進めることができた](#)と考えています。

第6次中期経営計画の進捗状況 (3)

■ 女性キャリアデザインプロジェクト

女性活躍推進法に基づく「えるぼし(2段階目)」に続き、「あいち女性輝きカンパニー」を東海支店が取得

【えるぼし】

基準 5 項目中 4 項目(1~3,5)を達成

- 1.採用
- 2.継続就業
- 3.労働時間などの働き方
- 4.管理職比率
- 5.多様なキャリアコース

▶2019年5月取得



【あいち女性輝きカンパニー】

▶愛知県の認定により、
2020年1月取得



産休・育休者フォローアップ研修の実施



【効果】

- 同じ環境にある社員同士で意見交換し、不安解消
- 復帰に向けてのモチベーションの向上
- 部署ごとフォローのばらつきがないような体制の構築

リーダー育成オリエンテーション始動

【女性社員による現場見学会】

【女性社員同士の対話会】



女性活躍推進行動計画における実績 (グループ採用者に占める女性割合を20%以上に)

	2018年	2019年	2020年	直近3ヶ年(計)
新卒採用数	23	30	27	80
うち女性	6	7	6	19

→女性採用割合 23.7%

「女性キャリアデザインプロジェクト」についてご説明します。

女性社員のネットワークづくりを支援する取り組みです。

「産休・育休者のフォローアップ」、「リーダー育成オリエンテーション」などを行っており、女性社員が、多様な人とのつながりを持ち、ひとりで悩むことなく、仲間や相談相手を見つけることに役立てて欲しいと期待しております。

新卒採用者に占める女性の割合は、直近3カ年では、目標の20%を上回る23.7%となっています。

このような取り組みの結果、2019年5月に、厚生労働省から「えるぼし」を取得したのに続き、2020年1月には、愛知県から「あいち女性輝きカンパニー」の認定を頂戴することが出来ました。

第6次中期経営計画の進捗状況(4)

■ LCトータルソリューションの高度化

上郡町庁舎ZEB化保全事業（兵庫県赤穂郡上郡町庁舎）



老朽化した
庁舎の全面改修

温室効果ガス
排出量大幅削減

ランニングコスト
大幅削減

上郡町庁舎

設計コンサルタント

(設計監理・コミッション)



日比谷総合設備

(代表、設計・施工)



* ZEB Ready・・・エネルギー消費量を50%以上削減した建築物

「LCトータルソリューションの高度化」につきましてご紹介いたします。

「ZEB」、すなわち、「ゼロ・エネルギー・ビル」の取り組み事例です。

快適な室内環境を実現しながら、省エネ技術や再生可能エネルギーを活用し、建物で消費する「一次エネルギー収支」をゼロにすることを目指します。

本件は、既存の建物を対象としており、100%のZEB化ではなく、ZEB Readyという「50%以上の削減」を目標とした取り組みです。

財務目標の達成状況

- 第55期(2019年度)の実績(前期比での達成状況)
 - 受注高は、主にNTTグループからの受注増により、3.4%(26億円)増加
 - 売上高は、大型工事の進捗等により、8.4%(58億円)の増収
 - 営業利益、経常利益、当期利益は、利益率の改善等もあり、大幅な増益
- ※ 第6次中期経営計画の財務目標を概ね達成

(単位:億円)

	2018/3 実績	2019/3 実績	2020/3 実績	前期比 (%)	第6次中計3ヶ年 各年度目標
受注高	725	758	784	3.4%	750 ~
売上高	668	700	758	8.4%	750 ~
営業利益	31	20	36	80.1%	40 ~
経常利益	40	32	42	32.0%	50 ~
親会社株主に帰属する 当期純利益	72	27	35	30.5%	30 ~

財務目標の達成状況についてご報告いたします。

第55期(2019年度)の「受注高」は、5G需要の高まりやデータセンター工事の増加などを背景に、NTTグループからの受注が順調に増加した結果、前期に比べて3.4%(26億円)増加し、784億円となりました。

「売上高」は、民間の大型工事が順調に進捗し、NTTグループ関連工事も回復したことから、前期に比べ8.4%(58億円)増収し、758億円となりました。

利益につきましては、工事の予算管理の徹底などにより利益率が改善したことから、前期に比べて大幅な増益を達成し、営業利益36億円、経常利益42億円、当期利益35億円となりました。

結果といたしまして、第55期(2019年度)におきましては、「第6次中期経営計画」の財務目標を「概ね」達成することができたと考えております。

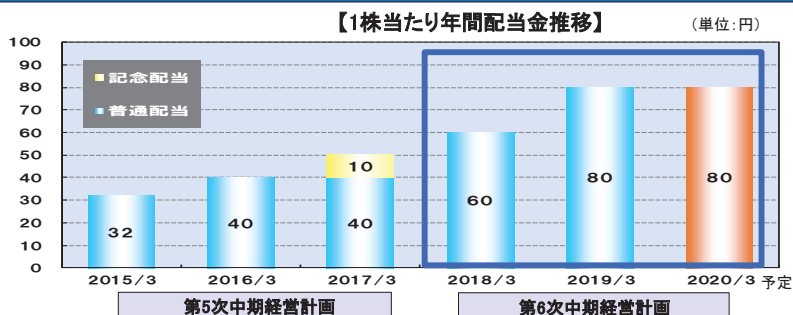
還元施策の状況

基本方針

- 第6次中期経営計画の利益目標をベースとし、株式配当に重きを置きつつ、株主還元の一環として機動的に自己株式を取得する

株主配当金

- 配当による株主還元は大幅に拡大



自己株式の取得

- 自己株式の取得も着実に実施

【自己株式取得の推移】

	2015/3	2016/3	2017/3	2018/3	2019/3	2020/3
取得株数	45万株	44万株	46万株	449万株	37万株	30万株
取得総額	7.2億円	7.0億円	7.5億円	110.2億円	7.0億円	5.6億円

株主還元の状況についてご報告いたします。

「第6次中期経営計画」におきましては、株主配当に重きをおきつつ、自己株式を機動的に取得するという方針で取り組み、株主還元を充実させてまいりました。

第55期（2019年度）の株主配当は、中間配当金として40円をお支払いしており、本総会におきまして第1号議案が承認されますと当期の年間配当金は 1株につき80円となる予定です。

自己株式の取得につきましては、第55期（2019年度）は、30万株、5億6千万円を実施いたしております。

2019年度竣工案件(1)

渋谷の中心からムーブメントを発信し
新たな文化を生み出すステージ



渋谷スクランブルスクエア(東棟)	
所在地	東京都渋谷区
延床面積	181,000㎡
規模	地上47階/地下7階
当社施工	給排水

《オークラ・ランターン》の名で親しまれた
切子玉をモチーフにした照明等、
本館ロビーを精緻に復元



<メインロビー>



<Okura Fitness & Spa>

The Okura Tokyo	
所在地	東京都港区
延床面積	180,905㎡
規模	地上41階/塔屋2階/地下1階
当社施工	給排水

第55期(2019年度)の主要な竣工物件をご紹介します。
このページでは、首都圏の物件を2つほど紹介させていただきます。

ページ左側は、「渋谷スクランブルスクエア」でございます。
渋谷再開発のランドマークとなる物件の衛生設備を手掛けさせていただきました。

右側は、ホテルオークラ様の「ザ・オークラTOKYO」でございます。
高層棟(プレステージ・タワー)の衛生設備を担当させていただきました。

2019年度竣工案件 (2)

歴史ある京町屋の建物を継承しつつ、
都市型ラグジュアリーホテルにリノベーション



©Forward Stroke inc.

THE HIRAMATSU 京都	
所在地	京都市中京区
延床面積	3,982㎡
規模	地上5階/地下1階
当社施工	空調・給排水

24時間365日の救急医療体制を整えた病院



藤田医科大学 岡崎医療センター	
所在地	愛知県岡崎市
延床面積	37,674㎡
規模	地上7階
当社施工	給排水

続きまして、首都圏以外の竣工物件を2つ紹介いたします。

ページ左側は「The Hiramatsu Kyoto」、京都の中心部、室町通りの物件です。

町屋を取り壊してマンションを新築する計画だったのですが、これを変更し、もとの建物の景観を継承したホテルに建て替えたプロジェクトであります。

右側は、「藤田医科大学岡崎医療センター」です。

3月竣工の物件ですが、開院前に、クルーズ船・ダイヤモンドプリンセス号の乗客・乗員のうち新型コロナウイルス感染症の無症状陽性者の方、および、その濃厚接触者（同行者）の受け入れ場所として活用されたと伺っております。

第56期（2020年度）の取り組み方針（1）

業績予想（連結）

（単位：億円）

	2019年度 実績	2020年度 業績予想
受注高	784	620
売上高	758	680
営業利益	36	20
親会社株主に 帰属する 当期純利益	35	15

- 新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う不透明な事業環境のなか、以下につき厳しい前提条件を想定し、業績予想を策定
 - ▶ 建築需要の低迷に伴う受注環境の悪化
 - ▶ 完成工期の延伸による工事進捗の遅れ
 - ▶ 一部資材価格の上昇等による利益率低下
- 事業環境の変化に対し、機動的な対応を図る

株主還元

長期的かつ安定的な配当の継続

株主配当金 1株につき年間80円を維持

自己株式取得 未定

第56期の取り組み方針についてご説明します。

当面の景気動向は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響から厳しい状況が見込まれます。感染が収束する時期、収束するまでの間に経済に与える影響について見通すことが困難であり、収束後の改善ペースについても不確実性が大きく、建設業界におきましても不透明な状況が予想されます。

当社グループにおきましては、引き続き、コア事業である設備工事業の収益力強化と新たな事業機会の創出による企業価値向上に努めるとともに、コンプライアンスの徹底やリスク管理体制の整備等による経営の健全性の確立にも尽力してまいります。

第56期（2020年度）におきましては、不透明な事業環境の中、「受注環境」、「工事進捗」、「利益率」について厳しい前提条件を想定し、前期の実績を「下回る」業績予想とさせていただきます。

当面は、これら財務目標の達成を目指しつつ、経営環境の変化に機動的に対応し、必要に応じて見直しをしていきたいと考えております。

第56期（2020年度）の「株主配当金」につきましては、利益計画は対前期で大幅な減益の計画となっておりますが、中長期的な安定性と継続性の観点を踏まえ、前期（第55期）と同じ水準を維持し、1株につき80円とする予定です。

「自己株式の取得」につきましては、現時点では「未定」とさせていただきます。

第7次中期経営計画について

本年4月よりスタートする予定であった第7次中期経営計画については、新型コロナウイルス感染症拡大等に伴い、事業動向の先行きが不透明なため、現時点では、第56期（2020年度）第2四半期決算に合わせて発表する予定としております。

本年4月よりスタートする予定でありました「第7次中期経営計画」につきましては、先行きが不透明な状況であることから、現時点では、半年程度遅らせて発表する予定です。

株主の皆様におかれましては、今後とも、なにとぞ格別のご理解とご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

以上、ご報告申し上げます。